

未来に伝えたい三田の自然

～生態系レッドデータブック～



青野川



有馬富士



畦倉のため池

三田市

目 次

はじめに	1
I. 三田市の自然環境	3
1. 位置と気象	3
2. 地形・地質	4
3. 生物	6
4. 自然環境の地域特性	9
II. 生態系レッドデータブックの考え方	10
1. 生態系のとらえ方と階層	10
2. 重要な生態系の抽出と評価の手順	11
3. 参考にした調査資料	12
4. 評価の方法	13
III. 重要な生態系の選定	16
1. 選定結果	16
2. 類型化された小生態系のタイプ	17
IV. 重要な生態系の評価	19
1. 評価結果	19
2. 重要な小生態系とランク	23
3. 重要な中生態系とランク	24
4. 大生態系（小学校区）における重要な小中生態系の分布	25
V. 今後の課題	27
1. 市民による情報収集	27
2. 生態系評価に向けた生物調査の充実	27
3. 小学校区における生態系レッドデータブックの具体的な活用	27
4. 生態系保全のための管理の必要性	27
■重要な小生態系の紹介	29
水田／ため池／草原／湿原／湿性林／河川／河川岩上／滝／孤立林／林縁／ 社寺林／岩角地／バッドランド	
■重要な中生態系の紹介	78
農村／湿原群／河川・溪谷／ダム湖／里山	

はじめに

1992年ブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミットは、地球規模での環境問題が非常に深刻であることを広く知らしめることとなった。特に、地球温暖化、野生生物の減少（生物多様性の減少）は、国、地域レベルでの取り組みにより、地球全体の保全、改善を目指すべく合意された。

この内、生物多様性保全については「生物多様性条約」が締結され、それを受け我が国でも1995年に「生物多様性国家戦略」が閣議決定された。このような流れの中、日本では生物多様性保全の基礎資料として、絶滅のおそれのある生物種を示したレッドデータブック（RDB）が全国レベル、都道府県レベルで相次いで作成されるようになった。

これらレッドデータブックの中で三田市に関連するものとしては、「我が国における保護上重要な植物種の現状」(全国版植物 RDB, 1988年)、「近畿地方の保護上重要な植物」(RDB 近畿, 1995, 2001年)、「兵庫の貴重な自然」(兵庫県版 RDB, 1995年)、「日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-」(環境庁・環境省, 2000-2002年)があげられる。

相次ぐこれらのレッドデータブックの発行は、広く一般市民にまで生物多様性の重要性が認知されることとなった。しかし、一方で各種開発の際にレッドデータブック掲載種のみが注目される余り、移植などによる種の保護に終始し、その種の生育場所（生態系）の保全に結びつかないことが問題となってきた。

生物多様性には、「遺伝子の多様性」、「種の多様性」、「生態系の多様性」の3つのレベルがある*注。そして、それぞれのレベルでの保全を図りながら、その場所、地域の生態系を保全、維持していく必要がある。近年では「景観の多様性」の考え方も加わるようになり、より面的に、より広い範囲での生物多様性保全に向けた取り組みが必要となってきている。

一方、三田市では平成8年から兵庫自然研究会に委託し、三田市内の自然環境について詳しく調査してきた。これにより、三田市内における貴重な生物の分布状況、生物多様性を保全する上での重要な箇所の概要などが把握できるようになってきた。

このような背景を踏まえ、三田市における生態的に重要な箇所を抽出することにより、豊かな三田市の生物相を保全していくため、「生態系レッドデータブック」を策定する。

■環境関連・レッドデータブックに関する年表

	国の動向	兵庫県の動向	三田市の動向
1992	地球サミットへの参加		
1993	環境基本法 制定・施行		
1994	環境基本計画 閣議決定		
1995	生物多様性国家戦略 閣議決定 (各自治体からレッドデータブックが発行されるようになる)	阪神・淡路大震災 環境の保全と創造に関する条例制定 兵庫県版レッドデータブック発行	
1996			自然環境調査開始
1997	環境影響評価法制定 植物版レッドリスト発表	環境の保全と創造に関する条例施行	
1998			
1999	環境影響評価法施行	環境影響評価に関する条例 制定施行	
2000	第二次環境基本計画閣議決定		
2001		兵庫県版レッドデータブック見直し開始	継 続
2002	新生物多様性国家戦略 閣議決定		生態系レッドデータブック策定開始

*注： ゲンジボタルという種の中でも、西日本産と東日本産では、雌を呼ぶための合図である光の点滅の間隔が異なる。同じ種でも、地方や地域で生態的な違いを生じさせる異なった遺伝子を持つことが「遺伝子の多様性」である。

また、熱帯雨林では1 haの森の中には、どれひとつと同じ高木がないと言われるほど、多くの種類が生育していると言われている。このように、ある範囲の中での種の多さが「種の多様性」である。

そして、農村のように水田、ため池、畦の草原、里山などさまざまな生息空間の多さが「生態系の多様性」である。